

# 海外生活 レポート 55



川崎はスポーツも  
芸術もさかんな魅  
力ある街!戻って  
からもこの街で働  
き続けます!

めぐろ まりな  
**目黒 真里奈さん**

京都府舞鶴市出身。JICA青年海外協力隊の現職教員(川崎市で小学校教員歴10年目)。  
趣味:ランニング(多摩川をよく走ってました)、ダイビング(小笠原諸島ではまる→モザンビークでも潜りたい!)、ビールを飲むこと(モザンビーク産のビール「2M」(ドイスエミ)最高!)

## モザンビークってどこにある?

Boa tarde! こんにちは。目黒真里奈です。現在、JICA青年海外協力隊の現職教員としてモザンビークで働いています。モザンビークはアフリカ大陸南東部に位置し、インド洋に面しています。かつては、ポルトガルの植民地であり、1975年に独立を果たしました。この写真は朝5時に撮影した風景です。「この先はインド洋なんだな〜。」と考えると、世界って広いなと思います。



お気に入りのランニングコース  
朝日が昇る前の首都マプト沿岸

## 一度会ったらAmigo! 人の優しさに触れる町Chongoene

さて、私が住んでいる町はChongoeneという地名で、首都からローカルバスで6時間かかります。町の人口統計はありません。歩いていると、「Bom dia!(おはよう)」と声をかけられます。ここでは一度会ったら「Amigo!(友達)」です。私は、人の名前を覚えることがあまり得意ではないのですが、モザンビーク人は一度私に会ったら次から「Olá Marina!」と呼んでくれます。人々は、自給自足の生活を営み、畑でとれた野菜や果物、落花生などの作物を販売して生計を立てています。市場には、石鹸や

生とよりよい教授法と一緒に考えています。

日本では、先生達は分かりやすい授業を作るために、教材教具を使います。しかし、学校には教材教具を買うお金がありません。授業を考えるとときには、実物の果物を見せたり、小枝や花などを活用したりして授業を組み立てています。学生たちはとても熱心です。「Professora Marina! 授業の作り方が分からないので、時間があるときに教えてくださいませんか。」と質問に来ます。未来の先生のために、私も日々できることを模索しています。



カウンターパート(注1)のProfessor Salmãoと授業風景  
(注1)活動に協力してくれる現地の人

## 本当のSolidariedade(連帯)とは?

本校は、全寮制であり、学生たちは育てた野菜を食べて生活しています。週末も同様に学生同士でごはんを作ります。とある10月の週末は、通常在籍する330人ほどの学生の大半が帰宅し、残っている学生は20人ほどでした。学生たちは、いつもの米かシマと煮豆のメニューに少し飽きを感じていました。朝から代表の学生が提案し、「今日はいつもとは違う昼食を食べよう!」と計画。各学生は20メチずつ出し合って、普段、畑で栽培しないので食べることのできないレタスやトマトを購入しました。ある学生は山に行き、キャッサバ(注2)を掘りました。学生全員で協力して朝から火を起こし、調理し、16時に昼食を食べました。

日本では、教師が連帯感や協力することの大切さを教えますが、この国ではその必要がありません。みんなが自分で考え、協力して生活しています。



大好きなMandioca frita(キャッサバのフライ)とサラダ

(注2)アフリカや東南アジアでもよく食される中南米原産のイモ。「タピオカ」の原料。

## 相手の思いを知ること!!

私は、授業がない時でもできるだけ学生と話しています。本校には18歳から29歳までの学生が在籍し、結婚して子供を育てながら寮で暮らしている学生や、以前は仕事をしていた学生など、背景が多様です。

先生という立場にとらわれず、学生と日々一緒に過ごすことで、彼らが普段感じていることを知ることができます。私自身もハツとさせられること、考えさせられることがたくさんあります。もっと、このモザンビークの文化、人を知り、自分にできることを考えていきます。



授業後に学生とおしゃべり

小学生にも算数を教えています

# モザンビーク共和国



色とりどりの野菜 トマト、きゅうり、玉ねぎなど



米とfeijão(煮豆)

## INFORMATION



**モザンビーク共和国**  
面積 799,000km<sup>2</sup> 首都 マプト  
人口 約3,296万人 公用語 ポルトガル語

たわしなどの日用品を販売する小さな小売店もあります。ここでの私のお勧めはバナナです。1房20メチ(日本円約50円)で売られており、とても甘みがあります。私は毎週のように購入し、朝ごはんに使っています。

## 国民食はシマ! しかし、お米も食べることができる アフリカの国!

モザンビークには、旧宗主国のポルトガルや移民が多いインドなどの影響を受けたさまざまな料理があります。国民食はシマという白トウモロコシの粉を練った物で、見た目はマッシュポテトのようですが、味はありません。肉やfolha de abóbora(かぼちゃの葉)などと付け合せるとおいしいです。シマを食べる人もいれば、米やパンを食べる人もいて、モザンビーク料理は日本人の口に合うと言われていています。私の町では、肉や魚は高価なものであり、普段、人々は米かシマとfeijão(煮豆)を食べて暮らしています。米を食べることができるなんて最高!

## 意欲的な学生たち Chongoene初等教員養成校での 仕事!!

2023年9月18日より、Chongoeneにある初等教員養成学校で勤務しています。本校は2011年にモザンビーク政府が建設した国立の学校であり、初等教員を目指す学生が3年間をかけて知識や技術を習得します。私は、算数の指導法を担当し、学